

平成29年度 東播磨地域稲作気象台情報 第3号

発行：平成29年9月7日
東播磨農業改良普及事業協議会

1. 気象状況

8月上旬から中旬にかけては、概ね平年並みの気温、日照時間となりました。8月下旬は降雨がなく、気温、日照時間共に平年を上回りました。

2. 生育状況

県立農林水産技術総合センター（加西市）の気象感応調査結果（8月25日現在）

品種	草丈	茎数	止葉葉位（主稈葉数）
ヒノヒカリ	93cm（平年比98%）	433本/m ² （平年比109%）	16.5枚（平年差+0.7）

出穂期月日：8月29日（平年比+1日）

3. 病虫害発生予察調査結果（9月6日 定点12ヶ所調査）

（1）病害の発生状況

- ・いもち病：加古川市北部で葉いもちの少発生あり、明石地区では今の所なし
 - ・紋枯病：加古川市で少発生あり、明石地区では今の所なし
 - ・縞葉枯病：加古川市南部の調査対象株以外で発生あり、明石地区では今の所なし
 - ・もみ枯細菌病：
 - ・稲こうじ病：
- 発生なし

（2）虫害の発生状況

- ・ヒメトビウンカ：
 - ・セジロウンカ：
- 発生なし
- ・トビイロウンカ：発生なし
 - ・ツマグロヨコバイ：約半数のほ場で発生あり
 - ・斑点米カメムシ類：稲美町、加古川市で要防除密度（捕虫網40回振りで3頭以上）のほ場あり、明石地区では今の所なし
 - ・フタオビコヤガ：高砂市で発生あり、明石地区では今の所なし
 - ・イネツトムシ：
 - ・コブノメイガ：
- 発生なし

4. 今後の管理

（1）水管理・刈取り（ヒノヒカリ）

稲の根の活力を保つため、収穫の1週間から10日前までは間断灌水を続けましょう。温度が高く、落水時期が早いほど、乳白粒や腹白粒、未熟粒などが増え、整粒歩合が低下する傾向があります。品質低下を避けるために、早い時期からの落水は控えましょう。

また、落水後、あまり乾燥が続くようであれば、走り水を行いましょ。

刈り取り時期の目安は、出穂後40～45日頃、籾の黄化率（黄色くなった籾の割合）が85～90%になったときです。刈り遅れは、胴割れ米や穂発芽の発生、玄米の光沢落ち、茶米の増加の原因となるので、適期収穫に努めましょう。

（2）病虫害防除

<斑点米カメムシ類>

これから乳熟期を迎えるヒノヒカリ等の晩生品種では、斑点米の原因となるカメムシ類への

対策が重要です。基幹防除を行っていない場合は、早急に薬剤防除を実施しましょう。

なお、カメムシ類への防除は、ウンカ類やツマグロヨコバイへの防除効果も期待できます。ただし、粉剤等を使用する場合は、株元まで薬剤が届くよう丁寧に散布しましょう。

<トビイロウンカ（秋ウンカ）>

第2回に引き続き、今回の調査でもトビイロウンカの発生は確認されませんでした。成熟期の遅いヒノヒカリ等の晩生品種では、9月下旬以降の増殖による坪枯れが、収量・品質に大きく影響します。トビイロウンカは稲の株元に生息しますので、発生が見られないか今後も注意深く観察を継続しましょう。

<スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）>

今年も多数のは場で食害が見られました。また現在、今夏に孵化した子貝が多数見られています。生息域の拡大を抑制し、今後の被害を軽減するために、地域ぐるみで防除対策に取り組みましょう。

①ロータリー耕耘で機械的に貝を破砕し、密度を低下させましょう。

冬季や田植え前の耕耘でも効果はありますが、水田の土が硬い水稻収穫後が最も効果的です。深さは6 cm程度、ロータリーをできるだけ高速で回転させ、通常の1/2以下の速度で実施することがコツです。また、稲刈り後もしくは田植え前に、石灰窒素を用いて殺貝する方法もあります。（ただし15℃以上の水温が必要）

②田畑輪換を取り入れた作付けを実施しましょう。

夏作に大豆等の畑作物を栽培すると、貝の密度を低下することができます。ただし畑作であっても、メッシュの金網や網袋などの侵入防止網を、水口等に設置することが重要です。（移植栽培は9 mm目、湛水直播は6 mm目が望ましい）

③用水路などの泥さらいで貝を退治（補殺）しましょう。

夏に孵化した貝は、秋に1～3 cmに成長し、土中で越冬、翌春に活動を再開します。しかし、西日本での野外の越冬率は10%未満と寒さに弱く、マイナス3℃では2日以内にほとんどが死滅するので、泥さらいで越冬貝を寒風に晒しましょう。また、田植え前後に2 cm以上の貝を補殺することも被害軽減につながります。

*薬剤使用にあたっては、必ず使用時期（収穫前日数）や使用回数等の使用基準を確認、遵守し、農薬の飛散防止に努めましょう。

出穂前防除薬剤(例)

* JA水稻栽培暦等を参照してください

・トビイロウンカ、斑点米カメムシ類対応

→ スタークル粒剤(3kg/10a)・トレボン粉剤DL(4kg/10a)

またはスタークル豆つぶ剤(250g/10a) (いずれも収穫7日前まで、3回以内)

こちらの气象台情報は、あかし農協のホームページでもご覧いただけます。

<http://www/ja-akashi.or.jp/>

あかし農業協同組合